

介護

VOL.23

2011.1.27

- ①平成23年 新年の抱負 **青山里会の始動**
- ② **特集** 青山里会(訪問看護ステーション)が
取り組む地域福祉活動
- ③昨年(秋)第25回小山田温泉祭り(7000人超)の
ご来場ありがとうございました
- ④韓国・老人施設シンポジウム(10/19)
- ⑤日韓国際フォーラム(11/1)
- ⑥身体障害者療護施設小山田苑 耐震工事始まる
- ⑦(9/1)防災訓練の実施
- ⑧ **コミュニケーション広場**
 - ・第10回レジデンシャルケア研究会議(10/30)
 - ・東海北陸ブロック地域包括・在宅介護支援センター協議会(11/9-10)

発行 社会福祉法人 **青山里会**
四日市市山田町5500-1
☎059-328-2177
<http://www.normari.jp>



(写真は、昨年12/28餅つきの様子)

新春

今年も新たな気持ちで初心に戻り、ご利用者の皆様やご家族が日々安心して快適な暮らしを送って頂けるよう、青山里会職員が一丸となって社会福祉事業に取り組んで参ります。本年もよろしくお願い致します。



青山里会は、年齢や障がいの有る、無しに関わりなく、すべての人が平等に、豊かに、安心して暮らすのがあたりまえで、普通のことであるという思想、ノーマリゼーションを理念として、福祉事業の充実に努めています。

祝

年頭のごあいさつ



理事長 川村 陽一

昨年は、住み慣れた街で安心して暮らしていける環境づくりをテーマに、地域密着型施設の開設を川島・常磐の二つの地区で展開することができました。これも地域住民の皆様方が快く、私達青山里会の事業を受け入れて下さったものと心より御礼申し上げます。さて、昨今の社会情勢は医療・介護保険サービスだけでは、生活を支え切れないでいる方が地域の中にはたくさんお見えになります。私達、青山里会は昨年同様に地域福祉活動に目を向けていき、高齢者の医療

や福祉サービスに留まらず、貧困・孤立化の対策や障害者サービスにも力を注いでいけるように新たなサービスメニューの開発を目指して参ります。四日市市が日本で一番、高齢者や障害を抱えてみえる方にとって、安心して暮らせるやさしい街と言われるよう、希望を胸に事業を展開して参りたい気持ちで一杯です。どうか地域の皆様、各関係機関の皆様、誰もが安心して暮らし続けられる社会を目指し、今年も最善をつくして参りますのでご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



人事室長 (部長)

三瀬 正幸



少子高齢化に伴う労働力確保が困難となる一方、認知症高齢者や医療・介護ニーズの増大に対応した「地域包括ケア」の提供に資する人材の育成が必要とされています。

青山里会では、人材の質と量の確保・定着を目指し、働きやすい魅力ある職場環境の整備に取り組んでまいりますのでよろしくお願い致します。

①「安心・安定の職場」

昨年は、事業所内託児所運営や介護職員処遇改善交付金活用に加え、職員が自分の目標や将来像を描きながら、安心して働き続けるよう、キャリアパスを明示しました。今年にはさらに医療的ケアに対応した教育・研修制度の充実と労働法規遵守に取り組めます。

②「安全な職場」

昨年は、腰椎検診事前調査内容の見直し、腰椎予防対策マニュアル作成と腰椎予防体操の徹底専門医による腰椎予防研修会を開催し、対策に取り組めました。今年にはさらに労働安全衛生管理体制を強化しメンタルヘルスを含めた日常生活における健康の保持増進に取り組めます。

③「楽しい職場」

昨年は、職員新陸・旅行共済会による海外旅行、感謝祭、たて干し、大忘年会等を実施しました。今年も職員(御家族)の新陸・交流する機会の充実に取り組めます。

ケアワーカー部長

伊藤 妙



私たち青山里会ケアワーカー518名は、共有の理念目的・目標を持ち、常に介護職員の輪と団結を図りながら、介護現場で今年も一年頑張っていくつもりです。

『ケアワーカーの理念』

利用者一人ひとりが、ご自身の意見や考えに基づき思いが届き・穏やかに安心安全な暮らしが確保及び尊厳ある生活が送れるようにしていきます。

『目的』

利用者の笑顔が、私たちのやりがいのキャッチフレーズとなり、他職種と連携し、一人ひとりに合ったケアを行っていきます。

『目標』

- ①他職種と連携を持ち、チームケアを行います。
- ②生活暦や生活習慣を知り、その思いに気づけるケアをしていきます。
- ③一人ひとりに合ったケアを行います。
- ④笑顔が引き出せるように、ゆとりのあるケアを行います。
- ⑤私達はいつも笑顔を大切にします。

事務部長

田中 節子



2011年新しい年が始まりました。私たち事務が常日頃から気を付けていることは、笑顔でお迎える気持ちを大切にすることです。

特に初めてのご来訪時

やサービスのご利用される際、おそらく不安な気持ちを抱えておられると思います。そうした不安の思いを少しでも和らげていきたい。そのためには、真心をこめて対応をさせて頂けるよう心掛けていくよう気を配って参ります。

今年も一年、温かい気持ちを持って、思いやる心を育んでいければと思います。本年も「原点」に立ち返り、さらにきめ細かく確実にしっかりと皆さまをお迎えできるよう、取り組んで参りたいと思いますので、よろしくお願い致します。



常務理事兼本部長
西元 幸雄

昨年は関係諸機関並びに地域の皆様には、多大なるご支援を賜り深く感謝申し上げます。

近年の社会情勢において、社会福祉に求められる役割

は多様化してきています。医療・介護問題だけでなく、貧困、虐待、食の問題や孤立、無支援状態と求められるサービスに際限がなくなってきました。青山里会は今年も1年、地域の輪の中に、皆様のお仲間として認めてもらえるよう励んでいきたいと思ひます。私達の事業は第一種の社会福祉事業として、生活にお困りである方の暮らしを全面的に支えさせて頂くことこそが、社会的な使命であります。しかし、対象者も年々増加傾向にあり、私達だけでは十分に補えないのが現状であります。

地域住民の皆様にお願ひがござひます。皆様方が既にお作り頂ひている「地域の支え合ひ」の取り組みの中に、私達(青山里会)もお仲間に入れて頂けないでしょうか。私達にも、何かお役にたてることがあると思ひます。どうか今年も1年よろしくお願ひ申し上げます。



副本部長 **落合 将則**

昨年は、小山田特養のサテライト施設として、「常磐サテライト」並びに「川島サテライト」を設置させて頂きました。これも偏に地域の皆様方のご支援、ご協力の賜と心より感謝申し上げます。

国では、障害を受けても、住み慣れた地域で、暮らし続けることができる社会の実現を目指し『地域包括ケアシステム』が提唱されています。私ども青山里会でも、その実現に寄与するため、地域で暮らしおられるお一人お一人の生活課題の解消に努めるべく、総合的なサービスを提供させて頂ける地域の拠点で地域の皆様と共に、創り上げていきたいと考えております。とりわけ、『住まいの問題』や『食に関する問題』については、孤独死に見られるような「孤立化」との相関も指摘されています。青山里会では、みんなが暮らしおられるそれぞれの地域が、安心して老いることができる地域となるように、社会福祉法人としての役割を皆さまとともに果たして行きたいと考えております。

今後とも、何卒、皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

看護部長 **伊藤 明子**



年頭に際し、取り組みをご報告申し上げます。近年ますます在宅療養推進への流れが加速しています中、訪問・施設・通所事業を問わず、療養生活を支える看護を今一度見直す

機会を頂いている様に考えます。これまで以上に必要とされるように、謙虚に仲間と切磋琢磨し、チームケアの中で貢献できる役割を探求していくことに励んで参りたいと思ひます。どんな些細なことでも「気づき」から始め『地域福祉・医療』の中での看護職としての役割を真に考え、改める事を整理しつつ、しっかりとその役割を果たせるようにしたいと考えている次第です。また感染対策においても、日頃よりご協力頂ひており、この機会を通し感謝申し上げます。今年も一年よろしくお願ひ申し上げます。

栄養管理部長 **松本 春美**



さて、昨年は常磐地区・川島地区にサテライト型特養がオープンし、「住み慣れた地域で継続して生活ができるように支える」という目的に、一歩進み始めました。また私達が暮らす

街には年齢と共に、一人きり、二人きりといった生活になってしまうことで、「何か起こった時の心配」や生活の中で、「食材を買い、食事を作り、食べて後片付けをする。」といった事すら、大変になってくる事があります。特に自宅の近くのお店がなくなったり、高値になっていたり、新鮮な食材を手に入れる事が、大変な人も全体としても増えています。そこで、青山里会では食事や栄養をとることが、不十分な方々(無支援状態)への支援を目的に、コミュニティ食堂での食事の提供等、新たなサービスの開発に取り組み始めました。今年はさらに地域住民の皆様のご意見を伺いながら、住民の方々から必要とされる「コミュニティ食堂」を目指していきたいと思ひます。施設や地域のご利用者の方々の食の安心・安全を守る役割を使命とし、お一人お一人が健康で楽しい生活を送ることができるように、これからも取り組んで参ります。

企画開発室長 (部長) **近藤 辰比古**



昨年は、サテライト型特養を川島・常磐の2施設を開設し、施設もようやく軌道に乗り落ちて参りました。サテライト型特養も法人で4箇所となり、これらの拠点で新たな事業として、食のサービスの実施を計画しており、私達は「コミュニティレストラン」と名付け、食の孤立を防止し満足な食事や栄養を取れない環境にいる方を支援できればと考えています。また新たな地域においても、地域住民や行政機関の方々との協働により、新たな事業を行って参りたいと考えております。

さて平成24年度には、介護保険制度の大きな改正を控え、今後の医療・福祉・介護がどうなるのか不安に思っ見える方もいると思ひますが、私達青山里会は、誰もが安心して暮らしおける住まいをこれからも地域住民の皆様と共に考え、そして実現に向けて取り組んで参りたいと思ひますので、今年も1年ご支援の程よろしくお願ひ致します。

特集

訪問看護を使って 安心して暮らしてみませんか!



皆さまこんにちは!!私たちは、四郷訪問看護ステーションの訪問看護師です♡私たちの仕事は、病気や障害を持った方が、ご家庭で療養生活が送れるよう、看護師が「かかりつけ医」の指示・連携のもと、ご家庭を訪問し、医療的な処置を行ったり、服薬管理、病状観察や日常生活の支援の他、精神的ケアや相談に応じ、在宅での療養生活が安心して送れるよう援助していくことです。



毎朝必ずミーティングを行います。

下の写真(3枚)は、訪問看護師が医師の指示のもと、医療環境の整備をし、定期的に医療処置を行いに行っているところです。緊急時の対応が可能となるよう、主治医と連携しながら、病気の発症や重度化を防止できるよう取り組んでいます。もちろん日々の日常生活を支えていくには、ケアプランと連動し、ヘルパーさんと協働して、日常生活の全般を支援し、QOLの向上を目指していきます。



訪問して看護師が吸痰と口腔ケアを行っています。

四郷 訪問看護ステーション

ご連絡はこちらまで...

☎059-322-1790

私たちは、ご本人、ご家族のご希望に応じ、住まいでの「看取り」を行う場合、「かかりつけ医」の指示・連携のもと安心して療養生活が送れるよう取り組んで参ります。



訪問看護は保険の種類によって、(医療・介護)利用方法が違います。



レスピレーター(人工呼吸器)



第25回 小山田温泉祭り



11月6日・7日
晴天のもと開催できました。

7000人ものご来場を頂きました。
ありがとうございました。

今年も子どもたちの
楽しい笑いが、
お年寄りに笑顔をもたらし
てくれました。



夢のようなおとぎの世界

おえかき



本物の消防車



昔ながらの駄菓子屋



出演して下さったみなさん
すばらしいパフォーマンスを
ご披露してくれました。

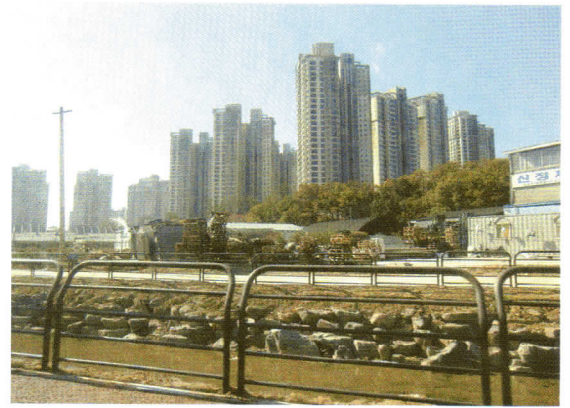


今年も大盛況で
楽しいお祭り
を送れました

今年25回目となる温泉祭りは、「みんなで楽しめる」をテーマに祭りを作り上げてきました。毎年、地域の皆様とともに考えることができることに感謝しております。温泉祭りが、地域社会の催し(まつり)として受け入れて頂けるよう、これからも「みんなで作る、みんなで楽しめる」街のお祭りに成長させていってもらえるよう、途切れることなく実行していきたいと思ひます。

10/31
~11/2

韓国(コヤン市)研修会 韓・日国際フォーラム



コヤン市内

コヤン市は丘陵と漢江を背景に昔から農耕文化が栄えていた都市であります。近年、人口は100万人の大都市へと成長を遂げ韓国を代表とする国際都市として成長を続けている街でした。



油絵は理事長自ら描いた作品です

コヤン市副市長との懇談会もなごやかな雰囲気の中、韓国の07年に「老人スバル保険制度」(日本の介護保険)がスタートしてからの3年が経過し、日本同様に社会全体で支えていくシステムについて情報交換などを行いました。

今回の国際フォーラムでは「地域福祉ネットワークの形成」について、パネリストとして西元幸雄常務理事と大阪市立大学大学院の白澤政和教授が招待を受け青山里会が今取り組んでいる地域福祉活動について報告を致しました。

身体障害者療護施設小山田苑 (定員80名)



施設南面を改修している写真です。

耐震工事始動

工期 平成22年12月14日～平成23年2月末日
設計監理 (株)服部都市建築設計
施工業者 (株)久志本組

小山田苑は昭和52年に当時は小山田病院として建てられ、病院の移築に伴い、昭和61年に身体障害者施設として運営を開始することになり、現在に至ります。



10/19

2010 ソウル市 老人福祉協会 シンポジウム



左側で講演の通訳とコーディネートをしてくださっている方は黄才榮氏



日本の介護現場における ケアマネジメントの動向と視点

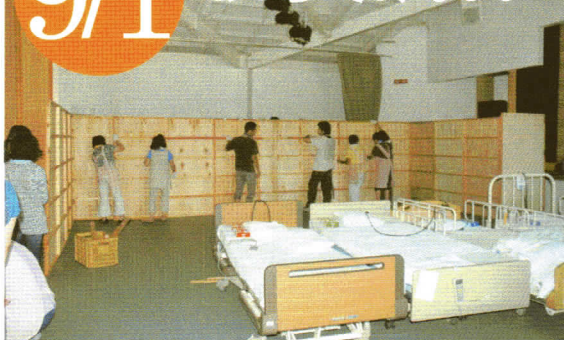
る時が来、その意味でもニーズ (生活問題)とサービスとを結びつけて行くシステムがとても大切であることを報告されました。そして、日

2010年10月19日、韓国のソウル市にて、西元幸雄常任理事が、ソウル市老人福祉協会主催するシンポジウムで「日本の介護現場におけるケアマネジメントの動向と視点」と題して講演をしました。シンポジウムでは、国民の誰もが介護を必要とす

本の介護保険制度ではケアマネージャーがケアプランの作成していく過程の中で、その役割をになっていて、地域福祉活動をしていく上でサービスを提供していく上での要となっていることを述べてられました。

9/1

防災訓練の実施 日本はいつ何処で災害が起こるか わからない災害列島です。



仮設ベッドブース設置訓練

訓練では、実際に仮設の避難場所として身体を休めることができるように「ベッドブース」を確保する作業を行いました(上写真)また、備蓄している食品・物品類を効率的に手際よく供給できる作業(右写真)も行いました。訓練を常に繰り返し実施していくことで、スタッフの防災に対する意識も日々変わり、その時への心の備えを常に持ち続けていくことが大切であると実感しました。

(9/1)防災の日に法人全体で防災訓練を行いました。近年、震度6を超える地震が頻発しています、もはや火災だけの訓練ではなく、地震、集中豪雨、台風などによる自然災害といった災害に備えていく必要があります。

青山里会は四日市市において第二避難場となっており、常に地域社会とともに対応策を考え、取り組んで行きます。



支給物品類の仕分け作業訓練

第10回レジデンシャルケア研究会議 青森大会を終えて



代表 川村陽一(青山里会理事長)によるあいさつ

今回で第10回を迎えることになったレジデンシャル研究会議(青森県)が行われました。本研究会議の代表を務める川村理事長は、H22年に竣工したサテライト型特養(20床、ショート10床)の開設意義や運営上の課題も含め、小規模なタイプ(全室個室)の居住についての報告をしました。研究会議では、レジデンシャル(住まい)の新たな在り方について、専門分野の方々が集い、いろんな立場で様々な視点から討論がなされました。



東海北陸ブロック地域包括・在宅介護支援 センター協議会 三重大会を終えて



三重県地域包括・在宅介護支援センター協議会
会長 西元幸雄氏
(青山里会常務理事)による
開会あいさつ



昨年の11/9・10の二日に渡り、四日市都ホテルで「地域包括ケアシステム」について 白澤教授で職員研修が行われました。当日は225名の福祉医療スタッフが参加し、地域福祉活動への取り組み方や課題、さらに連携(ネットワーキング)や伝達の苦労についての意見交換がなされました。また、大阪市立大学、大学院の白澤教授からは、地域でのネットワークづくりの展開方法についての講義を頂き、明日からの援助や地域福祉への取り組みに生かしていければと思います。

